

研究・調査報告書

報告書番号	担当
234	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>A study of blood and urine alcohol concentrations in cases of alleged drug-facilitated sexual assault in the United Kingdom over 3-year period.</p> <p>薬物乱用によって生じたとされる英国における 3 年間の性犯罪症例の血中および尿中のアルコール濃度</p>	
執筆者	
Scott-Ham M, Burton FC	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Journal of Clinical Forensic Medicine 13:107-111, 2006.	
キーワード	
アルコール、薬物乱用、性犯罪、アルコール血中濃度、アルコール尿中濃度	
<p>要 旨</p> <p>英国ロンドンにおいて、2000 年から 2002 年の間に 1014 人が薬物乱用による性犯罪者として逮捕された。その中の 391 名において、血中と尿中のアルコール濃度分析が法医学部門で検査された。アルコール飲用からの時間的経過によるアルコール濃度減少を考慮して、血中濃度の推定がなされた。その結果、60%がアルコールを飲用していた。また、血中アルコール濃度が 150mg/100ml 以上あり、血中濃度が高いと判定したものは、391 例中の 60%に及んだ。飲用した機会や場所は、パブ、バー、ナイトクラブ、あるいはパーティであった。また、この高濃度のアルコール血中濃度を有していたものの中に、違法薬物乱用者もいた。この結果は、社会的な通常の行事や生活の中で、多量飲酒が行われ、それが性犯罪につながっている可能性が示され、多量飲酒に対する教育啓発活動の重要性を示している。</p>	